

祝

開町120周年記念式典 盛大に挙



た。純農村として発展を続け、昭和35年1月には町制施行の構想が樹立されました。道知事及び道議会に「浦臼村を町にすることについての申請書及び陳情書を提出することについて」を、昭和35年3月19日に第1回定例村議会に上程を行い、満場一致で原案可決となったことで、昭和35年9月1日に町制が施行されました。

近年、過疎化や少子高齢化をはじめ、人口減少など数多くの課題を抱えた厳しい行政運営の時代となっておりますが、本町においては定住促進施策や子育て支援の拡充をはじめ、高齢者へのタクシー料金の助成や認定こども園の開設など、定住人口の維持・確保のための各施策を進めています。

また、本町を開拓した入植者のつながりから、平成11年2月に高知県本山町との友好交流町の調印を締結してから本年度20周年を迎えます。これまで町民や役場職員、中学校間の相互訪問など様々な交流事業を進めてきましたが、更なる交流の充実を目指し、昨年10月に浦臼中学校で、今年の5月には本山町の嶺北中学校で姉妹校の調印を交わし絆を深めたところです。



「開町120周年」という大きな節目を迎え、本町の今後の更なる発展を願い、8月31日（土）、農村センターにおいて浦臼町開町120周年記念式典が執り行われました。

本年は明治32年、月形村より分村独立し120周年を迎える記念の年となります。

分村前、集治監沢入口に囚人の開拓小屋が建設されたことを始まりに友成農場、岩村農場などが次々に入植、未開地が開拓されていったことで、浦臼村の開村時には2500人以上の人口がありました。

国民健康保険税は納期内に必ず納めましょう!!



5代目町長の山本要氏へ名誉町民章が贈られました。



町政功労者はじめ、表彰が行われました。



本山町の細川町長より祝辞をいただきました。



月形町の上坂町長より祝辞をいただきました。

本山町獅子舞保存会による舞踊が披露されました。



式典の最後に、小松議長より決意表明がありました。



小中学生、りらの会による合唱が披露されました。

式典では、本町発展のために尽力された先人の方々に対して黙とうが捧げられ、来場者による町民の誓いの朗唱が行われました。

齊藤町長の式辞では、「郷土の発展にたゆまぬ努力を続けてこられた先輩各位と、不撓不屈の精神で開拓に尽力された先人のご苦労に対し心から感謝と敬意を捧げます。新時代「令和」の幕開けと開町120周年が重なることに縁を感じながら、21世紀を力強く生きるために、小さくても心豊かなまち・住んでいて良かったと思えるまちを目指し、町民一丸となつて突き進むべく決意を新たにしています。町民の皆様には、この記念式典を機に未来への更なる飛躍・発展に向けまちづくりにいっそうのお力添えをお願いいたします」と決意が述べられました。

月形町の上坂町長、友好交流町である本山町の細川町長から祝辞をいただいた後、5代目町長の山本要氏へ名誉町民章の贈呈が行われました。また、本山町獅子舞保存会による舞踊、りらの会と児童・生徒による合唱が披露されました。

最後に浦白町議会の小松議長より「これまでの歩みを振り返り、郷土愛を育むとともに、未来へ『誰もが笑顔で安心して暮らせるまち』、『小さくても心豊かなまち』を目指し、町民の皆様とともに力を合わせて、まちづくりにより全力で取り組みます」と決意の言葉が述べられました。

開町120周年記念式典ご臨席のお礼

去る8月31日挙行の標記記念式典に際しましては、多数の関係機関各位、町民各位のご臨席を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

お陰様をもちまして、盛会裏に式典を終了することができました。

今後とも町政の進展を目指して、より一層の努力をいたす所存でありますので、よろしくご支援、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

町民各位の益々のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。略儀ながら本紙面をもって御礼申し上げます。

浦白町開町120周年記念事業実行委員会
委員長 浦白町長 齊藤 純雄

ゴミは、分別して出しましょう!!